

平成 16 年度 秋期 上級システムアドミニストレータ 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1 〔出題趣旨〕

従来、システム化要件の定義作業を、情報システム部門や外部機関にゆだねていた結果、要件定義が不十分で、開発期間の延長、開発費用の増加、システムのライフサイクルの短縮などの問題が発生していた。

本問は、このような問題を解決するために、利用部門としてシステム化要件の定義段階から主体的にかかわり、情報システムに求められる高度化、多様化した様々な要件をどのような手法を用いて定義したか、その際に発生した問題にどのように対応したかについて、具体的な論述を求めている。システムの設計や開発、プロジェクト管理を中心とした論述は、出題趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされたシステム化要件定義のための分析能力、モデル化能力、問題解決能力、及び主体性やリーダーシップを評価する。

問 2 〔出題趣旨〕

多くの企業が顧客指向の経営を目指しているが、重要なのは顧客情報の有効活用である。これまで、企業は顧客と様々な接点をもちながら、そこで得られる情報は各部門に散在し、あまり有効活用されていなかった。

本問は、これらの顧客情報を有効活用するために、顧客戦略を十分に理解した上で、各部門の協力を得てどのように顧客情報を集約し、有効活用する仕組みを構築したかについて、具体的な論述を求めている。単なるコールセンタの設立やシステムの導入だけの論述は、出題の趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされたデータ分析能力、問題解決能力、調整能力、及び見識やリーダーシップを評価する。

問 3 〔出題趣旨〕

消費者ニーズの激しい変化に伴って、商品やサービスのライフサイクルは短くなってきているので、その開発のスピードアップが業務戦略上重要になっている。

本問は、競争上、限られた時間の中で、限られた開発要員の創造性を最大限生かして、開発のスピードアップをはかり、業務上の成果に結びつけるために、情報技術を利用した仕組み作りや活用のうえでの様々な工夫、及びスピードアップの阻害要因への対応について、具体的な論述を求めている。業務効率の向上やシステム開発のスピードアップを中心とした論述は、出題の趣旨にそぐわない。

本問では、論述を通じて、上級システムアドミニストレータに求められる、解答者の経験に裏打ちされた問題分析能力、問題解決能力、更に問題解決に向けた主体性やリーダーシップを評価する。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。